



第55号

発行

足利市大前町268-1

足利工業大学後援会

ご挨拶



足利工業大学後援会 会長

前原 剛

足利工業大学後援会会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。皆さんは、足利工業大学で学びたいと入学を希望し、大学から入学の許可をいただきました。新足利工大生の一つお願いをしたいと思います。「ルールを守ります」という事です。この世の中には数々のルールがあります。そしてそのルールによって我々は守られています。大学のルール、足利のルール、社会のルール、この「ルール」を守り足利工大生としての四年間を楽しく意義ある生活を送って、大学卒業後は、社会の一員として、即戦力となれるよう日々努力をし

てほしいと思います。

さて、本会の目的は、学生達の学生生活を守り支援し援助をする事、また、大学教育に理解を深め、施設、設備の充実、改善のため協力することです。この目的を達成出来るように年間約六回の理事会を行ない、活動をしていきます。

学生達への支援の内容をいくつか上げてみます。

研究活動、クラブ活動、学生自治会活動、大学祭などの援助、また、就職に関する各種ガイダンスや、情報資格試験、各種キャリア資格試験などの支援、一〇〇円朝食サービスなどを行っています。

後援会会員の皆様には大々学を見ていただきたい、大々学を知っていただきたいと思います。

後援会の総会では、後援

会の事業報告、決算報告などを、会員の皆様にご審議していただいております。後援会は、総会が年度の切り替えであり新年度のスタートとなります。

教育相談会では、学生の単位の修得状況や学生達の生活の様子などを知る為にもぜひ参加していただきたいと思います。

そして、学生達の主体により開催されます大学祭「わたらせ祭」があります。学生達の日頃の研究発表または、クラブ、サークル等の活動発表や様々な催し物など、学生達の生き生きとした笑顔を見るのも楽しみます。

この三つの事業は、後援会、大学、学生、それぞれが主体となる、大きな事業だと思えます。ぜひとも会員の皆様には、参加し見学しただきご意見ご感想を後援会までお寄せください。より良い後援会作りの皆様御協力をよろしくお願い致します。



後援会総会



新役員紹介



退会役員感謝状贈呈

- 《後援会退会役員》
- 副会長：小野 幸作 様
 - 副会長：荒井 誠司 様
 - 監事：柿沼 義人 様
 - 理事：松橋 昭子 様
 - 理事：塚越 直巳 様

長期にわたり、後援会に御尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

学科再編の成果を見る



足利工業大学学長
牛山 泉

まず、後援会の皆様には、日頃から物心両面のご後援をいただいておりますことに、心からなる感謝と御礼を申しあげたいと存じます。

さて、足利工業大学は、時代の要請に基づいて学科の再編を行い、二年目を迎えました。従来からの学科を再編した機械・電気工学系、建築・社会基盤工学系、情報システムデザイン学系はもろろのこと、新たに設置された、自然エネルギー・環境学系や生命システム学系においても、注目が集まっております。たとえ、自然エネルギー・環境学系の教員グループは、国際協力機構の要請により、「ケニア国における再生可能エネルギーによる無電化地域の電化計画と人材育成」という四年間二億円のプロジェクトを受けて、活動を開始し二年目を迎えております。また、昨年十一月に訪日されたブータン国王ご夫妻のことは記憶に新しいところですが、社会基盤構築に必要な土木工学と電気工学のみの同国のブータン工科大学に、機械工学科を設置する案件でも、本学が協力することになっております。このように、少しずつではありますが学科学再編の成果がみられるようになりました。

究に多様性と創意工夫が生まれ、教育と研究の現場にも活力が増すこととなります。今の日本社会には「人間として何が正しいのか」を教える機関がほとんどありません。私どもの大学は、宗教心に立脚した「心あるエンジニア」を育てることを目指しております。これこそが今、本当に求められているのではないのでしょうか。今こそ、本学の創立者の志に立ち返って、再スタート

を切らねばなりません。本学に入学された学生諸君、そしてご父母の皆様が「足利工業大学に入ってよかった」と心から満足している。ただ、私ども足利工業大学の全教職員の願いであり、本学の社会的貢献であると考えております。後援会の皆様方のご協力を得て、共により良い大学となり、より努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本学の教育が目指すもの



足利工業大学副学長
蟹江好弘

開学以来四十五年を迎えた本学からは二万人を越える卒業生が巣立ち、初期の卒業生は既に還暦を過ぎました。この間、国内外において、また本学においても実にさまざまな出来事がありました。卒業生の中には、公務員、教員、機械・電気・

建築・土木・ソフトウェア等の設計者、製作技術者、企業経営者等が見られます。苦労が実った人の中には地方都市の幹部職員、校長、大学教授、企業・設計事務所の経営者などが居ります。また一般的には本学で学んだ知識を生かし、企業や社

ご子弟をお預かりしているわけで、その責任の重大さを改めて感じます。工業大学として最先端の工学技術を学び、その多くをマスターし、社会に貢献していくことはもとより重要な課題です。さらに大学の最も重要な使命である「知性と教養」を身につけてもらうことも私どもは大切にしております。国内外の出来事を注意深く見守り、適切に判断し、自分の見解を持つこと、自分が社会の一員であることを自覚し、人々の和

と尊厳を守り、どのような困難に遭遇しても、それに立ち向かい、事態を解決する力を養うこと。集団の中で、良く考え、企画し、それを実践に移せる実力を養成すること、このような力を得る助力が私たちに求められていると思います。そのためには、単に教育の現場で「良く出来る学生」であることに加えて、在学中にさまざまな経験を積んでもらい、大きく成長してもらいたいと思っております。

を幅広く身につけること、学系・コース選択のための情報提供、および教職課程科目とするものでした。教員免許の取得を目指す学生の場合、自学系科目以外に他学系の概論六科目の修得を必要としていましたが、自学系科目の選択割合を高められるよう、四科目を必修とし、残り四科目を選択必修に変更致しました。変更内容は、平成二十三年入学の学生にさかのぼって適用されます。

新体制2年目を迎えて



教務委員長
庄司和男

本学では、昨年の四月から創生工学科がスタートし、新体制となりました。それに併せて、次の五つの教育システムがスタート致しました。(1)九時三〇分授業開始、(2)一般科目は四コマ(十

六時四〇分終了)まで、(3)専門・教養科目担当教員全員によるゼミを開設、(4)学系概論を開設、(5)「履修登録単位数の上限制度」(以下、CAP制)を摘要。まず、「九時三〇分授業開始」については、これは「住宅通学者の交通の便を考慮しての変更でした。アンケート調査を実施した結果、ほとんどの学生から「良い」との回答がありました。「一般科目は四コマまで」については、サークル活動や委員会活動などに参加できるような時間的環境を改善し、学生個々が学生生活を通してしっかりと人間形成をできるようにするためでした。これについては、平成二十三年度のクラブ登録者数が五六四名であるのに対し、平成二十四年度は六一四名と増加傾向にあり、環境改善の効果が現れてきたように思っています。

「専門・教養科目担当教員全員によるゼミを開設」しましたのは、導入教育およびキャリア教育のための基礎力を身につけることを目的としたものでした。教員からは、より良いゼミとするためのたくさんの意見を頂いており、学生からは概ね「良かった」との感想を頂いております。今年度も、昨年同様実施しております。また、各学系に「二つの学系概論を開設」致しましたが、これは専門基礎知識

最後のCAP制の導入目的は、履修科目数を制限し、十分な授業外学習時間を確保することにあります。CAP制導入と同時に成績評価のためにGPAも導入致しました。そのGPAによる成績評価の結果、平成二十三年度前期では五四%の学生が成績良好(GPAが二・〇以上)という結果となりました。後期の履修上限単位数を二十四単位もしくは二十六単位としています。一方、GPAが一・〇以下と単位取得状況が思わしくない学生が一割程度いました。登録科目すべてが六十点台の場合、あるいは単位を落とし過ぎた場合に、一・〇以下となりま

す。単位を落とし半期での単位取得数が十六単位以下の場合、四年での卒業研究に着手できない、あるいは卒業見込み書が発行されず就職活動ができない心配があります。そこで、GPAが一・〇以下の学生については学期始めに個別履修プログラムにより徹底した履修指導を行っております。

また、今年度前期から、キャリア教育科目として「文章表現II」がスタートしました。キャリア教育科目は、就職活動にとつて重要な科目として位置づけていますが、受講者が少ないのが現状です。そこで、教務委員会では受講者の少ない原因を調査し、重要な科目であることを学生に周知すること、履修条件を改善することなどで後期に開設の文章表現IIIの受講者増を図ることにしています。

おわりに、教務委員会では、学生の勉学意欲に応えられ、教育環境をさらに充実したものとすべく、他委員会と協力し、教職員が一丸となって努力していきたいと考えております。今後ともご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

「充実した学生生活を送るために」



学生指導委員長
伊東 一臣

日頃より学生指導委員会の活動にご理解と多大なご援助をいただきありがとうございます。学生指導委員会は学生の健康、クラブ活動、特待生の選考、表彰、教育相談会及び学業等の学生支援と指導を行い、四年間の学生生活において人間力及び技術者としての教養と技術を身につけて立派に社会に飛び立っていかれるようにと願い、事務局である学務課と共に活動している委員会です。健全な学生生活を送るためには、まず健康と健全な精神が必要です。本学は他大学では行っていない血液検査をも行っており、学生の健康に配慮していますが、残念ながら就職を迎える三年生の健康診断では約四割の学生が再検査を受ける状況です。また経済の状況は学生たちにも及び、パン又

はカップラーメン一個で昼食を過ごす学生も目立ちます。学生には朝食を食べるよう指導をしていますが、後援会のご援助による一〇〇円朝食の提供、体力づくり相談室による指導と実践、栄養士による食生活相談、保健室等により学生の健康維持に努力を続けてまいります。また今の学生は些細なことでも傷つきやすく精神的に弱い学生が目立ち、高学年になるほど学業、就職、対人関係、社会性の未熟等の精神的な問題が増加しています。これらの精神的問題を事前にチェックするUPIテスト、クラス担任による個別指導、専門のカウンセラー及び保健室が学生の相談に対応して問題の解決に当たっております。一方、社会的に人間関係が希薄と

職業観を育む



就職指導委員長
和田 昇三

動が苦手な学生がコミュニケーションが取れない学生が目立ちます。新入生には「大学の時代の友人は一生の友となる」早く良い友人を作ることを推奨し、また本年度はこの対策としてクラブ活動の活性化を大学の方針として、新入生歓迎会の開催及び大挙行事への積極的参加を掲げて学生たちと共に力を入れた結果、諸クラブに加入した学生及び球技大会等の学校行事に参加する学生が大きく増加いたしました。学業においては授業の出席状況、学習状況、教員による指導状況及び就職活動等が一目でわかる学生カルテの運用により、クラス担任による個別指導及び学習支援等により学習態度の改善及び学習支援を行っております。また後援会のご支援により保護者様との面談による教育相談会を行って学生の就学状況、就職状況等の相談を行っていただきます。ご参加をいただきたいと思います。学生が人生の礎となるような充実した学生生活を送れるように、全教職員は引き続き努力をしておりますので今後とも後援会の厚いご支援をお願いいたします。

大学生に対する求人倍率（求人数/求職者数）はリーマンショックの年が二・一四で、一・二八（平成二十三年三月卒）、一・二三（二十四年）、一・二七（二十五年）と此処三年は低い値で推移しています。このような中、本学の内定率は八二・八%（二十三年）から、昨年度は八七・五%（二十四年）へと増加しています。これは東日本大震災の影響で土木建築関係の求人が増えたためであり、機械、電気、情報関係は一向に良くなる気配はみえません。

今年の各科の状況を見ますと六月三十日現在で、一五・九%（機械）、二一・九%（電気電子）、三八・六%（建築）、四二・九%（都市環境）、六・五%（システム情報）でこの傾向に変わりありません。ただし、全体では昨年を一%上回る二・三・一%であり、

求人倍率が伸び悩む中、健闘していると思われれます。大学生の就職環境が改善されない中、文科省の指導のもと平成二十三年度より、全国の大学は職業指導科目を授業に取り入れ単位として認定するようになりました。この背景には、①就職後三年以内に三割が離職、②就業意欲の乏しい学生が増加、という現実があり、これに對して大学側の職業指導が不十分との認識があるようです。

本学では既に平成二十一年度より「キャリアガイダンス（職業指導講座）」を開設し職業指導を行っています。一年次では「大学生活に対する目的意識を持たせる」、二年次では「勉学意欲向上をはかる」、三年次では「就業力を育成する」ことを目的として開催して参りました。二十三年度より職業指導科

目として、当講座の内容をベースにして、「文章表現Ⅰ、Ⅱ」「自己表現Ⅰ、Ⅱ」を開設し講義を始めています。近年、就職活動に消極的な学生が多いと感じていますが、これらの科目を通して、より多くの学生が就業意欲を持てるよう努力していきたいと思っております。

最後にありますが、日本経済の低迷で、今後志望する会社へ行けない学生が多数出てくると思われます。しかし、第一、第二志望でなくとも、採用して頂ける会社があればともかく入社を勧めたいと思います。どのような仕事であっても精魂傾け、向き合っていけば、一生全うするに値する仕事となるに違いありません。豊かな時代に育った今の学生にはそのような職業観をもたせることが必要であり、それこそ本委員会に課せられた重要な使命と考えています。

以上、就職指導委員会でしっかりとした職業教育をし、内定率アップをはかってまいりますので、保護者の皆様におかれましてはご理解賜りますようお願い申し上げます。

◆平成24年度 教育相談会について◆

足利工業大学では毎年夏期休業期間を利用して、保護者の方に学生の実情を知っていただくことを目的とした教育相談会を開催しております。この企画は、本学の教職員が、学生たちの勉学状況や成績等をご報告すると共に、ご要望・ご質問等のご相談に個別に応じるというものです。

ご多忙中とは存じますが、是非ご参加ください。また、できればご子息ご息女をご同伴くだされば、より一層の教育的効果があるかと思えます。

なお、教育相談会にご参加の際には、8月27日

本学発送の保護者様宛、成績通知書をご持参くださいますようお願いいたします。

《9月16日（日）「スクールバス時刻表」》

大学発 足利市駅 行		東武足利市駅発 大 学 行	JR山前駅発 大 学 行
	7		
50	8		
45	9	10	20
55	10	05	18
	11	15	25
25	12	42	56
	13		
00	14	15	25
20	15		

※大学発はJR山前駅経由足利市駅行

教育相談会

平成24年9月16日（日）

会場：足利工業大学 学生ホール2階

受付時間 9:00~13:30

出席を希望される方は、8月上旬に送付しました「教育相談会開催のご案内」に同封の葉書をご返信ください。クールビズを実施しておりますので、軽装にてご参加ください。

◆足利工業大学 一般表彰受賞◆

【団体表彰】硬式野球部

2012年首都大学野球春季2部リーグAグループにて優勝されました。

創部3年目のこの見事な功績は、他の部活動の模範となる快挙です。



平成24年6月26日 本学にとって大変名誉なこととされ、学長から表彰されました。おめでとうございます。

平成23年度 足利工業大学後援会収支決算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収入の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
前年度繰越金	7,341,387	7,341,387	0	
会費	27,500,000	27,950,000	450,000	@25,000円
雑収入	70,000	71,815	1,815	学生災害傷害保険移動返還金
計	34,911,387	35,363,202	451,815	

支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	2,750,000	2,308,582	△ 441,418	
会議費	1,300,000	1,095,996	△ 204,004	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	260,200	△ 39,800	事務費一般
印刷費	250,000	170,100	△ 79,900	後援会会報印刷代・封筒代
通信費	900,000	782,286	△ 117,714	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費他
2 学生助成費	25,500,000	20,430,917	△ 5,069,083	
学生研究補助費	900,000	559,780	△ 340,220	卒業研究等補助
クラブ援助費	12,000,000	9,604,927	△ 2,395,073	クラブ活動援助費
学生活動費	6,300,000	6,092,900	△ 207,100	学生自治会援助金・大学祭援助 他
入学・卒業記念費	3,100,000	3,010,560	△ 89,440	入学記念集合写真費・卒業記念アルバム作成費
海外研修費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
保険料	1,200,000	1,162,750	△ 37,250	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	5,100,000	4,983,728	△ 116,272	
就職推進補助費	2,000,000	1,989,560	△ 10,440	保護者のための就職ガイドブック350部・資格支援費 他
厚生事業費	500,000	413,086	△ 86,914	教育相談会慰労会費用
教育環境援助費	1,500,000	1,500,000	0	同窓会館合宿所畳替え及びカーテン、建具新調費用
その他の厚生費	1,100,000	1,081,082	△ 18,918	東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動補助・朝食補助 他
4 慶弔費	1,200,000	678,000	△ 522,000	東日本大震災被災者見舞金・入学式献花代 他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 予備費	261,387	0	△ 261,387	
7 次年度繰越金	0	6,961,975	6,961,975	
計	34,911,387	35,363,202	451,815	

上記のとおり相違ありません。

平成24年3月31日

足利工業大学後援会 会計 萩原雄司

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

平成24年5月26日

足利工業大学後援会 監事 柿沼義人 監事 前原牧子
 監事 松浦里江子 監事 池澤佳代

学 事 歴

8月 4日～	夏期休業(9/20まで)	12月12日	成道会(午後休講)
11日～19日	エコ休業期間(完全休業・入構禁止)		定期学生総会
9月16日	教育相談会	25日～	冬期休業(1/7まで)
21日	全学ガイダンス	28日～1/6	エコ休業期間(完全休業・入構禁止)
24日	授業開始	1月 8日	授業開始
	個別履修プログラム(9/30まで)	15日	月曜日授業
	履修登録期間(9/30まで)	16日	午前休講
10月 5日	大学祭準備(全日休講)	18日	全日休講
	大学祭前夜祭	21日	全日休講
6日～8日	大学祭(全日休講)	31日	金曜日授業
9日	大学祭後片付け(全日休講)	2月20日	学内企業セミナー
10日	月曜日授業	21日	学内企業セミナー
11月22日	金曜日授業	3月19日	学位授与式

平成24年度 足利工業大学後援会役員名簿

No.	役 職	氏 名	所 在 市	学生所属学科・学系	学 年
1	会 長	前 原 剛	足 利 市		
2	副 会 長	池 澤 佳 代	佐 野 市	システム情報工	4年
3	副 会 長	茂 木 岳 幸	桐 生 市	システム情報工	3年
4	副 会 長	萩 原 雄 司	桐 生 市	電気電子工	3年
5	会 計	影 山 光 男	佐 野 市	建築・社会基盤	2年
6	監 事	菊 地 玲 子	足 利 市	情報システムデザイン	2年
7	監 事	中 山 浩	太 田 市	機械・電気工	2年
8	理 事	松 浦 里 江 子	足 利 市	機械工	4年
9	理 事	前 原 牧 子	桐 生 市	電気電子工	4年
10	理 事	今 井 幸 子	太 田 市	建築	4年
11	理 事	橋 本 彰 子	伊 勢 崎 市	都市環境工	4年
12	理 事	今 井 和 男	太 田 市	機械工	3年
13	理 事	三 田 康 子	足 利 市	建築	3年
14	理 事	野 村 馨 子	下 都 賀 郡	都市環境工	3年
15	理 事	渡 邊 郁 世	太 田 市	都市環境工	3年
16	理 事	小 沼 久 美 子	足 利 市	自然エネルギー・環境	2年
17	理 事	青 木 愛 子	佐 野 市	生命システム	2年
18	理 事	今 泉 文 子	足 利 市	建築・社会基盤	2年
19	理 事	大 澤 秀 也	足 利 市	自然エネルギー・環境	1年
20	理 事	大 関 一 雄	芳 賀 郡	自然エネルギー・環境	1年
21	理 事	川 崎 浩 司	さいたま市	自然エネルギー・環境	1年
22	理 事	片 柳 明	佐 野 市	機械・電気工	1年
23	理 事	柿 沼 好 伸	桐 生 市	建築・社会基盤	1年
24	理 事	久 力 正 通	長 岡 市	建築・社会基盤	1年

平成24年度 足利工業大学後援会予算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収 入 の 部

(単位 円)

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘 要
繰 越 金	6,961,975	7,341,387	△ 379,412	
会 費	25,250,000	27,500,000	△ 2,250,000	@25,000円
雑 収 入	70,000	70,000	0	学生災害傷害保険移動返還金
計	32,281,975	34,911,387	△ 2,629,412	

支 出 の 部

(単位 円)

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘 要
1 運 営 費	2,700,000	2,750,000	△ 50,000	
会 議 費	1,250,000	1,300,000	△ 50,000	後援会総会・理事会等諸費用
事 務 費	300,000	300,000	0	事務費一般
印 刷 費	250,000	250,000	0	後援会会報印刷代 他
通 信 費	900,000	900,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費 他
2 学 生 助 成 費	21,900,000	25,500,000	△ 3,600,000	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	10,500,000	12,000,000	△ 1,500,000	クラブ活動援助費
学 生 活 動 費	6,300,000	6,300,000	0	学生自治会援助金・大学祭援助・球技大会援助
入 学 ・ 卒 業 記 念 費	2,500,000	3,100,000	△ 600,000	入学記念集合写真費・卒業記念アルバム作成費
海 外 研 修 費	500,000	2,000,000	△ 1,500,000	学生海外研修補助
保 険 料	1,200,000	1,200,000	0	学生災害傷害保険料
3 教 育 助 成 費	6,600,000	5,100,000	1,500,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	700,000	500,000	200,000	教育相談会関連費用
教育環境援助費	3,000,000	1,500,000	1,500,000	学内環境設備費
その他の厚生費	900,000	1,100,000	△ 200,000	情報処理技術者試験補助・朝食補助 他
4 慶 弔 費	700,000	1,200,000	△ 500,000	入学式献花代・学生香典 他
5 雑 費	100,000	100,000	0	
6 予 備 費	281,975	261,387	20,588	
計	32,281,975	34,911,387	△ 2,629,412	

事務局便り

去る六月九日(土)に平成二十四年度後援会総会を開催いたしました。八十組の会員の方にご出席いただきました。ありがとうございました。ご都合により、ご出席いただけなかった方や、また、疑問・質問やご要望などがおありの方は、後援会事務局の学務課(TEL〇二八四一六二一〇九五〇)及び会計課(TEL〇二八四一六二一〇八一〇)へご遠慮なくお問い合わせください。また教育相談会が九月十六日に大学において開催されます。是非ご参加ください。

大学では久しぶりに(平成二十二年度以来)※一般表彰の表彰式を執り行いました。受賞者は「硬式野球部」です。創部三年目という若い野球部ですが、首都大学野球二部リーグAグループで優勝しました。一部リーグへの昇格もあと少しです。大学としてもクラブ活動の活性化は、今年度の方針のひとつで、クラブ勧誘行事として新入生歓迎会の開催や、一般科目の配置を四コマまでにして、学生が課外活動に参加しやすいようにした各委員会の方策が功を奏し、クラブ加入学生が増加しました。今後の各クラブ活動の活躍に期待してください。

※一般表彰・・・優れた研究活動や課外活動において、顕著な成績をあげた個人または団体に贈られる賞です。